

グリーン いしかわ



Green Ishikawa No.137

f 全農いしかわ公式
Facebookページ

全農いしかわの公式Facebookページ
「石川うまれがだいすきさ」

県産農畜産物やJA加工品、イベント
情報などを掲載中! ぜひご覧ください!

URL: www.facebook.com/ishikawaumare.daisukisa



Green Ishikawa Contents

▶News&Topics

- J A全農 令和2年度事業計画のあらまし
- 石川県本部 令和2年度事業計画
- 令和元年度 いしかわ園芸振興推進本部委員会
- 「ひゃくまん穀」生産者大会
- 「エアリーフローラ」県外市場でPR
- のどまり
- 自動車BIGフェア開催
- 令和元年度 J Aグループ石川TACパワーアップ大会
- Aコープでの販促イベント Aコープ旬鮮祭
- AガイヤにおけるJ A農産物・加工品等販促イベント

▶お知らせほか

- Beishinおこめキッチン
- J Aホーム
- ひゃくまん穀生産者部会

事業計画のあらまし

全力結集で挑戦し、
未来を創る

4. 元気な地域社会づくりへの支援

農村・中山間地域のライフライン対策や農泊への対応、ホームエネルギー事業の拡大

5. 海外戦略の構築

輸出拡大に向けた既存輸出国での販売力強化、営業拠点の新規設置、輸出用産地の拡充、および購買部門における海外からの原料・資材の調達力強化

6. JAへの支援強化

JAの経営分析等をふまえた、農家対応力強化、産地づくり、物流合理化、拠点型事業の一体運営等の支援

全農グループ全体としての取り組み

1. 本会グループの事業競争力強化に向けた経営資源の有効活用と、効率的な事業運営・経営管理
2. グループ経営による会員への還元の仕組みの検討

JAの組織改革への対応

地域の実態やJAのニーズに応じた、JAの広域合併や県域JA組成への対応の検討・実施

災害・家畜疾病被害からの復旧・復興

地震・台風等の被災地に対する復旧・復興支援の実施、CSF等の発生防止対策と営農再開支援の実施

持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み

今後設定されるJAグループの行動方針にもとづく、本会の事業を通じたSDGsの達成に向けた取り組み

※金額は2年度取扱計画、カッコ内は30年度実績比

生活関連事業 9,152億円(100%)

1. 農産物直売所・Aコープ会社での国産農畜産物の販売拡大と事業競争力強化に向けた体制整備
2. ライフライン対応メニューの拡充やインバウンド需要を取り込んだ農泊の事業化等、地域のくらし支援に向けた取組強化
3. 組合員の営農・家庭向け電力供給の拡大やホームエネルギーの最適利用提案、および蓄電池等の新機器活用
4. 石油供給体制の維持に向けたJA-SSマスタープランの完遂、LPガスの新規需要拡大・保安の高度化とグループ事業体制の構築

営農・生産資材事業 8,289億円(103%)

1. トータル生産コスト低減に向けた肥料や農機の共同購入、および農家手取り最大化の取り組みによる所得増大実証の水平展開
2. JA域・県域を越えた物流・受発注の構築や海外山元との関係強化等による肥料原料の安定確保
3. 農業ICTの活用による生産現場での省力化・低コスト化や、新たな品種・栽培技術等の開発、および多様な労働力支援の実践
4. TAC活動のレベルアップ等による人材育成、GAP認証取得支援、および農業施設など産地インフラの整備・再編支援

営業開発・フードマーケット事業・輸出対策

1. 全農グループ販売会社との共同営業による新規取引品目の拡大、グループ一体的な商品開発、実需者ニーズにもとづく産地開発、および加工・物流拠点の整備などのインフラ開発
2. eコマースを通じた国産農畜産物の販売拡大、および飲食店舗の拡大やインバウンド需要の取り込みなどリテール事業の強化
3. 輸出拡大に向けた既存輸出国での販売チャネルの開拓、中国を含む海外拠点の販売体制整備、輸出用産地の拡大、物流合理化、および海外中食・外食チェーン等との出資・業務提携



J A 全農 令和2年度

情勢認識

今次3か年(元～3年度)における 本会の取り組み

1. 自己改革の取り組みの加速化
2. 5つの最重点事業施策（生産基盤の確立、食のトップブランドとしての地位の確立、元気な地域社会づくりへの支援、海外戦略の構築、J Aへの支援強化）の実践

国内農業における課題等

1. 農業就業人口の急速な減少により深刻化する労働力不足への対策
2. 農畜産物を輸送するドライバー不足への対応
3. 中食・外食市場の拡大による加工・業務用需要への対応
4. 大雨・台風などによる被害からの復旧・復興に向けた迅速な対応
5. TPP11、日EU・EPAに続く、日米貿易協定の発効

2年度事業計画の基本的な考え方

自己改革の取り組みの加速化 および最重点事業施策の着実な実践

1. 自己改革の取り組みの加速化
米・青果物の直接販売や資材の共同購入の拡大
2. 生産基盤の確立
労働力支援、革新的技術の導入・普及、契約栽培の拡大、農畜産物の物流合理化
3. 食のトップブランドとしての地位の確立
全農グループMD部会による商品開発、生産から消費までのバリューチェーンの構築

事業別実施具体策

米穀農産事業

7,446億円(107%)

1. 主食用米や水田活用米穀の品目ごとの需要に応じた生産の徹底による水田営農の安定化
2. 実需者ニーズにもとづく作付提案・契約栽培の推進、および買取の拡大や柔軟な集荷対応による系統集荷量の拡大
3. パールライス事業の再編・米加工品の開発等川下分野の強化、およびフレコンによる輸送効率化や広域集出荷施設の設置
4. 麦類の需要に応じた生産と実需に望まれる品質・数量の確保、および大豆の生産振興と安定的な販売

畜産事業

10,792億円(103%)

1. 産地食肉センターを核とした機能集約・広域化や、包装肉事業拠点の全国網整備等による消費者向け最終商品の製造販売拡大
2. 省力化に向けた酪農モデル農場の実証など畜産生産基盤の支援・補完や、シンクロET・ICT等革新的な商品・技術の開発・普及
3. 配合飼料の競争力強化に向けた、取扱数量の維持・拡大や海外における飼料調達力強化
4. 広域での需給調整機能の発揮による生乳の有利販売強化や、集送乳合理化・クーラーステーション再編の実施

園芸事業

12,720億円(113%)

1. 直販施設の設置やリレー販売体制強化による直販事業の拡大
2. 加工・業務用需要への対応強化や冷凍青果物製造施設の設置検討
3. 加工・業務用野菜の生産提案・契約栽培の推進による生産振興や、輸入野菜の国産への切り替えに向けたサプライチェーン構築
4. J Aと連携した生産者対応の強化や、J Aとの共同設置・共同運営による大型広域集出荷施設の設置
5. スtockポイントの整備やパレット輸送の拡大推進





石川県本部 令和2年度事業計画

I. 重点施策

石川県本部では、今次3か年（令和元年度～3年度）計画において、「農業生産の拡大」、「販売力の強化と県内産農畜産物の消費拡大」、「トータルコストの低減」、「J A事業への支援拡充」、「事業シェアの拡大」の5項目を重点施策と位置付け、事業別目標の達成に向けて取り組んでいるところです。

令和2年度は、3か年計画の2年目として、元年度の実績見通しや、国内外の農業情勢や事業環境の変化を踏まえ、施策・行動計画の補強・追加や体制の強化策を織り込み、2年度計画へ反映させることとします。

また、「第38次J Aグループ石川基本戦略」の重点施策に位置付けられた令和4年4月1日を目途とする「県下3 J Aへの広域合併構想」を念頭に、J Aの経営基盤強化に向けた「J A支援策」をより明確に、そして着実に実践していきます。

【農業生産の拡大】

（米穀）

- ア. 水田フル活用による主食用米・水田活用米穀および麦・大豆の需要に応じた計画生産を推進します。
- イ. 行政と連携し、県産米・麦・大豆の収量・品質向上の取り組みを強化します。

（園芸）

- ウ. J Aグループ石川営農戦略室と連携した園芸品目の「新産地づくり」、「既存産地の拡大」の推進、および本会圃場で実証した園芸経営モデル

の普及に取り組みます。

（畜産）

- エ. 生産基盤拡大と担い手の育成に向け、行政と連携して、能登牛や養豚農家の規模拡大と生産性向上を支援します。
- オ. 能登牛肥育実験農場での研修受入等、新規就農者の育成を支援します。
- カ. 能登牛の肥育実験農場、実証展示事業のG A P基準での運営改善と増頭・増体に取り組みます。

【販売力の強化と県内産農畜産物の消費拡大】

（米穀）

- ア. 実需者とJ Aを結び付けた事前契約の拡大に取り組むとともに、県産米の売場拡大に向け、販促キャンペーン等を継続的に展開します。
- イ. 大規模生産者への集荷推進を強化し、共販率向上に取り組めます。
- ウ. 米心石川との協調集荷・販売を継続し、販売先への安定供給に努めます。
- エ. 契約栽培による「ひやくまん穀」の生産拡大に取り組めます。

（園芸）

- オ. 県産青果物の売場確保・拡大のため、直販や契約的取引の拡大に努めます。

- カ. 宣伝対策の強化により、石川オリジナル品目のブランド確立に取り組めます。

（畜産）

- キ. 能登牛・能登豚のブランド化を推進し、有利販売をはかるとともに、付加価値加工品の取扱いを拡大します。
- ク. 食肉センター・精肉パックセンターでH A C C Pに準拠した衛生管理を実践します。

（米穀・園芸・畜産）

- ケ. 直営飲食店やグループ店舗を活用した県産農畜産物やJ A加工品の継続的P Rと、効果的な宣伝対策の実施により県産農畜産物の消費拡大をはかります。

【トータルコストの低減】

（営農・肥料・農薬）

- ア. 農家手取最大化モデルJ Aで実践したトータルコスト低減技術や、大規模営農モデルで実証した技術の水平展開に取り組めます。
- イ. 農業I C Tやドローン等の最新技術を活用した省力化・増収技術等の水平展開に取り組めます。
- ウ. 2年3作体系による水田フル活用を推進します。
- エ. G A Pの普及・推進に取り組めます。
- オ. 省力化技術・資材および担い手生産者のニーズに対応したコスト低減資材の普及拡大をはかります。
- カ. 肥料、水稻除草剤・箱施薬剤の結集銘柄を設定しコストの低減に取り組めます。

- キ. メーカー工場から担い手生産者に直送する大型規格農薬の拡大に取り組めます。

（農機）

- ク. 担い手生産者の省力化、効率化に繋がるI C T対応農機の活用提案強化による導入促進に取り組めます。
- ケ. 低価格モデル農機の提案と普及推進に取り組めます。
- コ. 中古農機の取扱拡大に取り組めます。

（燃料、自動車）

- サ. 営農用燃料油、営農用車両の価格対策を実施するとともに、軽油免税制度の普及推進をはかります。



【JA事業への支援拡充】

（営農）

ア. JAと連携して農業生産法人等への出資や労働力確保等支援の仕組・態勢の構築をはかります。

（肥料農業）

イ. JA配送コスト削減に向け、農家戸配送の拡大に取り組みます。

（JAグリーン）

ウ. JA資材店舗における売場改善、産直農産物・JA加工品の販売拡大と安全・安心対策強化に向けた運営支援に取り組みます。

（農機）

エ. JA農機事業の運営基盤強化に向けJAと全農

の一体化運営に取り組みます。

（燃料）

オ. JA燃料事業の経営基盤強化に向け、燃料事業の受託・譲受・共同運営等を提案します。

カ. SS過疎地域におけるライフラインとしての拠点SS維持対策を実施します。

キ. JA—LPガス事業の保安高度化に向け、安全化システムの普及促進、JAの保安体制の強化に取り組みます。

（自動車）

ク. 本会とJAの整備工場の集約を支援し、自動車整備事業の受入体制の強化に取り組みます。

【事業シェアの拡大】

（肥料・農業）

ア. TACと連携した担い手生産者への推進を強化するとともに、JAとの協議に基づく担い手生産者対策を実施します。

イ. 結集銘柄等への集約と優位性ある価格設定により、系統品目の普及拡大に取り組みます。

（農機）

ウ. 農業機械の購買対策を強化するとともに、TACと連携した未利用担い手生産者への利用推進と切替対策に取り組みます。

（燃料）

エ. 基幹SSの総セルフ化、有力商圈における

新規出店およびJA—SSの運営力強化に取り組みます。

オ. JA—LPガスハートキャッチ活動、給湯器・ファンヒーター・衣類乾燥機の燃転推進活動および大口需要家の獲得推進を強化します。

カ. JAでんきの提案・推進に取り組みます。

（自動車）

キ. JA自動車事業の推進力強化と重点銘柄車のキャンペーン展開に取り組みます。

ク. 売れ筋車両の品揃え拡充により中古車販売を強化します。

Ⅱ. 事業別実施具体策

米穀事業

水田フル活用による生産振興とJAグループによる一元集荷・一元販売の推進

【水田フル活用による生産振興】

- ①水田フル活用による主食用米・水田活用米穀・麦大豆等の計画生産の推進
- ②水田活用米穀の需要確保と一体的取組の継続
- ③麦・大豆の作付拡大および単収向上

【安定価格・安定供給のための一元集荷】

- ④米心石川との連携強化と集荷体制の強化による共販率の向上
- ⑤大規模生産者に対する集荷推進の強化およびフレコン集荷の拡大

- ⑥本会連合倉庫を活用したフレコンおよびルート集荷の拡大と共同計算流通経費の削減

【販売力の強化と消費拡大】

- ⑦JAと実需者の結付販売の拡大とJA・実需者を含めた事前契約の拡大
- ⑧県産米の販促キャンペーンや消費拡大イベントの継続実施
- ⑨品質・食味向上対策の強化等による県産米のブランド力向上
- ⑩「ひゃくまん穀」の生産拡大と安定販売先の確保
- ⑪輸出入の新市場開拓と多収性品種の拡大

園芸事業

園芸作物の生産拡大および販売力の強化

【園芸作物の生産拡大】

- ①JAグループ石川営農戦略室と連携した「新産地づくり」と「既存産地の拡大」推進
- ②JA域を跨ぐ効率的な集出荷体制の構築
- ③本会圃場で実証した園芸経営モデルの普及
- ④生産拡大と連動した園芸種苗センターにおける優良種苗の安定生産

【販売力の強化と消費拡大】

- ⑤直接販売および重点市場と連携した実需者との契約的取引の拡大
- ⑥県産青果物フェア等による消費拡大・宣伝対策の強化
- ⑦石川県オリジナル品目（ルビーロマン、加賀しずく、エアリーフローラ、のとてまり）のブランド化推進

【生産コストの低減】

- ⑧材質・形状の見直しや規格集約による段ボール資材のコスト低減





畜産事業

畜産生産基盤の維持・拡大に向けた取組みと食肉販売事業の強化

【畜産生産基盤の維持・拡大】

- ①能登牛・肉豚の担い手生産者への生産拡大および生産性向上の支援強化
- ②能登牛の肥育実験農場・実証展示事業のGAP基準での運営改善と増頭・増体
- ③能登牛肥育実験農場での実地研修受け入れ等による新規就農者育成支援
- ④能登牛認定店の拡大等による有利販売先の確保

【販売力の強化と消費拡大】

- ⑤食肉の提案型営業による新規顧客獲得と既存取引先への拡販
- ⑥能登牛、αのめぐみ等の県産ブランド肉の推進強化による取扱拡大
- ⑦県産・国産食肉消費拡大対策の取組み強化
- ⑧冷蔵・冷凍ケース無償貸与によるJA直売店舗での取扱拡大
- ⑨食肉センター、精肉パックセンターのHACCPに準拠した衛生管理の実践
- ⑩広域販売も視野に入れた新たな包装肉拠点の整備

営農対策

JAグループ石川営農戦略室やJAと連携した担い手生産者対応および生産拡大とトータル生産コスト低減への取組み強化

【農業生産の拡大】

- ①「うまい・きれいな石川米づくり運動～石川米ブランドの確立～」を柱とした県産米の品質・収量向上運動の実践
- ②「ひやくまん穀」の収量確保に向けた栽培技術の普及

【トータルコストの低減】

- ③手取最大化モデルJAでのトータルコスト低減技術、および大規模営農モデルでの実証技術の水平展開
- ④Z-GIS等による農作業の見える化と、ドローン、

可変施肥田植機等のICT技術を活用した省力化・効率化の推進

- ⑤2年3作体系の取組農家・面積の拡大および大豆・大麦の増収技術普及

- ⑥GAPの普及・推進

【JA事業への支援拡充】

- ⑦JAと連携した農業生産法人等への出資や労働力確保等支援態勢の構築
- ⑧TAC推進体制の強化支援、およびJA未利用担い手生産者への推進支援

肥料・農薬事業

生産資材トータルコストの低減推進と農家戸配送体制の整備によるJA支援の強化ならびに事業シェアの拡大

【トータルコストの低減】

- ①省力化技術・資材および担い手生産者のニーズに対応したコスト低減資材の普及拡大
- ②肥料、水稻除草剤・箱施薬剤の結集銘柄の設定
- ③メーカー工場から担い手生産者に直送する大型規格農薬の拡大

【事業シェアの拡大】

- ④TACと連携した担い手生産者推進の強化とJAと

の協議に基づく対策の実施

- ⑤結集銘柄等への集約と優位性ある価格設定による系統品目の普及拡大

【JA事業への支援拡充】

- ⑥JAの配送コスト削減に向けた農家戸配送の拡大
- ⑦JA資材店舗の売場改善、産直品・加工品の販売拡大、安全・安心対策強化支援

農機事業

担い手生産者のコスト低減支援、購買対策の強化による取扱シェア拡大およびJAグループ農機事業の運営体制の強化

【トータルコストの低減】

- ①省力化、効率化に繋がるICT対応農機等の活用提案の強化
- ②中古農機の取扱拡大
- ③機能を絞った低価格モデル農機の普及推進

【事業シェアの拡大】

- ④主要農機の早期予約拡大策の強化
- ⑤推奨型式の取扱拡充

- ⑥TACと連携した未利用担い手生産者への推進と切替対策の実施

【JA事業への支援拡充】

- ⑦JAと全農の一体化運営によるJA農機事業への支援強化
- ⑧JA担当者の技術・知識及び意欲向上に向けた研修・コンテスト等の実施
- ⑨本会主催を含む安全講習会の開催促進



建設事業

J Aに対する計画的な施設投資の提案

【J A事業への支援拡充】

- ① J A 共同利用施設に対するコンサル機能の発揮
- ② J A 域を超えた施設整備の検討・提案

燃料事業

J A－S Sの運営力強化とJ Aガス事業の保安体制強化等によるJ Aグループ燃料事業の基盤強化と事業シェアの拡大

【事業シェアの拡大】

- ① J A－S Sのセルフ化推進と有力商圈における新規出店
- ② 柔軟な価格対策とチェーン会を軸としたイベント・キャンペーン等の実施
- ③ J Aと連携した未利用農家への営農用燃料推進の強化
- ④ 給湯器・ファンヒーターによる燃料転換推進の強化
- ⑤ 電気事業（J Aでんき）の提案・推進

【J A事業への支援拡充】

- ⑥ S S過疎地域における拠点S S維持対策の実施
- ⑦ ガス安全化システムの普及促進と保安指導強化による法令遵守徹底
- ⑧ J A域を超えた灯油の配送受託による輸送コストの低減
- ⑨ 燃料事業の受託、譲受、共同運営等、体制整備によるJ A経営基盤の強化

【トータルコストの低減】

- ⑩ 営農用燃料油の価格対策の実施と軽油免税制度の普及推進

自動車事業

ターゲットを明確にした拡販対策の実施による取扱シェア拡大およびJ A自動車事業の運営体制の整備

【事業シェアの拡大】

- ① 重点販社銘柄や、シニア向け、次世代組合員向け等ターゲットを明確にした拡販対策の実施
- ② 売れ筋車両の品揃え拡充による中古車の販売拡大

【J A事業への支援拡充】

- ③ 本会整備工場の改修によるJ A支援体制の拡充

- ④ 研修・コンテスト実施によるC S向上、業務改善、整備士のレベルアップ

- ⑤ メンテナンスパック等、顧客固定化・利用拡大対策のJ Aへの導入促進

【トータルコストの低減】

- ⑥ 営農用車両の価格対策の拡充

管理部門

全農グループ全体の事業運営力強化とコンプライアンス・リスク管理の徹底および県産農畜産物の消費拡大対策の継続実施

【事業運営力の強化】

- ① 効果的な教育研修による職員のレベルアップ
- ② 業務効率化提案の実施
- ③ 計画進捗管理の徹底と進捗状況の全農グループ全体での共有化
- ④ 子会社・関連会社等の管理・支援の強化

【コンプライアンス・リスク管理の徹底】

- ⑤ コンプライアンス・リスク管理意識の高揚に向けた継続的な研修の実施

- ⑥ 巡回による食品表示、労災等の重要リスクへの対応強化

- ⑦ 労務管理の徹底と業務改善等による労働時間の削減

【広報・宣伝活動の充実】

- ⑧ 県産農畜産物の効果的宣伝対策の取組み充実
- ⑨ 子会社と連携したJ A加工品の販路拡大支援の強化
- ⑩ J Aならびに直営飲食店・子会社店舗と連携した情報発信の強化





JAグループ石川 営農戦略室

令和元年度 いしかわ園芸振興推進本部委員会

2月4日(火)、石川県農業会館において、JA・県・県連担当者45名が参加し、「いしかわ園芸振興推進本部委員会」が開催されました。

会議では、JA全農いしかわより令和元年度の青果物共販実績を報告したのち、「つくろう！ふやそう！！園芸産地！！振興計画」の重点品目であるブロッコリーやかぼちゃ、白ねぎ、にんじん、たまねぎにおける生産振興の取組状況や実績の報告、県内16JAの取組状況や来年度目標等が共有されました。

また、来年度の園芸振興推進方策では、各種会議や育成研修会の計画が説明され、毎年課題となっている病害虫発生時の対策についての研修強化を求める意見や、市場や卸会社等実需者との積極的な意見交換等の提案が出されました。

会議の最後には、全農園芸種苗センターにおいて実施した「ういずOne」によるアールスメロン栽培や水稻育苗箱による切花ショート葉ばたん栽培の実証取組報告がありました。

JAグループ石川では、今後もいしかわ園芸振興推進本部委員会を軸として、園芸産地づくりの取組みを積極的に進めていきます。



米穀課

「ひゃくまん穀」生産者大会

本格栽培4年目となる「ひゃくまん穀」の生産者大会が2月18日(火)に金沢市の地場産業振興センターにて開催されました。生産者・JAグループ・県関係者約400名が参加し、令和元年産の栽培概要・品質分析結果、2年産での栽培対策や生産・販売方針等についての説明が行われました。大会の中では、「ひゃくまん穀」コンテストの表彰式や、基調講演として元千葉県農林総合研究センター長の金子氏より土づくりに関する講演が行われました。その後、石川県農業試験場の宇野研究員よりメッシュ農業気象データによる「ひゃくまん穀」の生育予測や、(株)NTTデータの丸山主任より生産者部会専用グループウェア「あい作」の紹介、元年度の実証圃のポスターセッション等がありました。

2年産では、県下の作付は1,400haを見込んでおり、出荷量は7,000トンとしており、出席者全員で「ひゃくまん穀」の高品質・安定生産と評価向上を目指して一丸となって取り組んで行くことが確認されました。



「ひゃくまん穀」については
こちらをチェック!!

ひゃくまん穀HP▶



園芸課

「エアリーフローラ」県外市場でPR



2/7 東京都中央卸売市場での
競り前挨拶の様子

エアリーフローラ振興会では、県、JA担当者とともに県外市場において、石川県のオリジナルフリージア「エアリーフローラ」のPR販売を行いました。

さわやかな香りがふわっと広がり、可愛らしい一重のものから華やかな八重咲きのものまで全10色というカラーバリエーションも豊富な「エアリーフローラ」。開花の最盛期が卒業や入学など新たな旅立ちの時期と重なることから、キャッチフレーズは“旅立ちを祝う花”、そして、花言葉は“希望”です。

多くの方に楽しんでいただけるよう、今後も県内外でのイベントやPR活動を行っていきます。是非一度「エアリーフローラ」をお手にとってみてください。



2/14 大阪鶴見花き卸売市場
Flower Galleryでの展示の様子





園芸課



の と て ま り



穴水高校「のとてまり」初競り@金沢市中央卸売市場

県立穴水高校の生徒が栽培した「のとてまり」が、1月25日(土)金沢市中央卸売市場で競りにかけられ、1箱8玉入が10万円で競り落とされました。穴水高校では、「のとてまり委員」の生徒が主体となって奥能登原木しいたけの栽培に取り組んでおり、今年で8年目となります。

前日の24日(金)には生徒代表と担当の先生が石川県本部を訪問



石川県本部訪問

し、今年の仕上がりや競りへの意気込み等を語っていただきました。



市場を訪れた生徒たち

そして迎えた競り当日には、早朝から生徒も市場を訪れ「のとてまり」のPRを行い、競り落とされた「のとてまり」は金沢市内で7店舗の飲食店を展開している(株)モミジグループさんにご購入いただきました。

の と て ま り 感謝祭 @近江町市場

毎年恒例となっている「のとてまり感謝祭」が、1月25日(土)近江町市場で行われました(主催:奥能登原木しいたけ活性化協議会)。

イベントでは、「のとてまり」や「のと115」、干しいたけなど加工品の販売や、きのこ鍋の振る舞い、穴水高校の生徒が作った「のとてまり」入りキッシュの販売等が行われ、多くの地元客や観光客の方で会場は賑わいました。



穴水高校生によるキッシュ販売のようす

自動車課

自動車BIGフェア開催

1月18日(土)~19日(日)に、J Aオートこまつ・J Aオートかなざわ・J Aオートななおの3会場にて、「自動車BIGフェア」を開催しました。

開催日前より、各J A担当者協力のもとチラシ・ポスターで一斉推進を実施し、フェア初日の朝刊にも掲載しました。

その結果、前年成約台数111台に対し117台の成約となりました。

また、来場された方には、来場粗品(ひゃくまん穀パックごはん)を、ご成約された方には成約記念品(車載レスキューセット)を贈呈し、お客様に喜んでいただけました。





JAグループ石川
営農戦略室

令和元年度 JAグループ石川TACパワーアップ大会

1月15日(水)、ホテル金沢において「JAグループ石川TACパワーアップ大会」を開催しました。本大会は、県内のTACの優秀表彰と併せ、TAC活動におけるモチベーションの向上やレベルアップ、及び先進的活動に対する取り組み事例を学ぶことを目的に開催しました。

表彰では、「TAC表彰」を受賞した松井博暉さん(JA石川かほく)に対し特別表彰を贈るとともに、TAC賞3名、新人TAC賞2名、新人TAC奨励賞3名を表彰しました。審査委員の岡田営農戦略室長より「優秀賞を受賞されたJA・担当者は、課題解決を図る手法が特徴的で、他のJAや担当者の模範となっており、受賞に至ったものであり、TAC活動の更なる充実に努めていただきたい」と審査講評がありました。

また受賞した、JA石川かほくの松井さんと、JA小松市の橋本さんに優秀事例発表を行っていただきました。

農家組合員への有益な情報提供や営農指導を通じて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」へ取り組むTAC活動を今後も強化していきます。

受賞者・JA

特別表彰

松井 博暉 氏 (JA石川かほく)

TAC表彰

橋本 克巳 氏 (JA小松市)

中田 昌孝 氏 (JA松任)

櫻井 和幸 氏 (JA石川かほく)

新人TAC表彰

西川 旭 氏 (JA能美)

室谷 優典 氏 (JAおおぞら)

新人TAC奨励表彰

村中 政信 氏 (JA小松市)

葛葉 香穂 氏 (JA金沢市)

久村 真史 氏 (JA金沢市)



JA石川かほく・松井さん、JA小松市・橋本さんによる優良事例発表



受賞JA及び受賞者記念撮影

Aコープでの販促イベント 1月25日(土) Aコープ旬鮮祭

県産甘藷・加賀れんこん

Aコープ旬鮮祭において、石川県産甘藷「五郎島金時・かほくくり」と「加賀れんこん」の試食を行いました。

甘藷は、ほくほくの焼き芋にし、加賀れんこんは、すりおろしてお焼きにして多くのお客様に試食していただきました。ご試食いただいた方からは、美味しいと好評で、魅力をPRするよい機会となりました。



ファーマーズ北安田店・富奥・かほく店



富来店

JA能登わかば

Aコープ富来店にて「中島菜」と加工品の試食を行いました。

旬の中島菜をお好み焼きにして試食していただきましたが、しゃきしゃきとした歯ごたえで美味しいと好評でした。また、中島菜入り緑茶「ま菜茶」と「緑のおくりもの」の試飲も実施し、たくさんのお客様に手に取っていただきました。





AガイヤにおけるJA農産物・加工品等販促イベント

JA金沢市「加賀れんこん」

● 1月10日(金) ●

JA金沢市の「加賀れんこん」のすりおろして作った、「お焼き」の試食を行いました。すりおろしたれんこんの食感に驚かれるお客様も多く、試食した方からは「もっちりとして美味しい」と大好評でした。



JA白山

● 1月17日(金) ●

JA白山の「抹茶入り玄米茶」と「手作り無添加米糲5割味噌」を使った味噌汁の試食を行いました。試食した方からは「お茶はきれいな緑色で、すっきりとした味わいが良い」や、「味噌は地元産の大豆を使っていて、手作りのあっさりした味が美味しい」と好評でした。

JAはくい

● 1月24日(金) ●

JAはくいの「まるごととはとむぎ」の試飲と、はとむぎ化粧品類のおためしイベントを行いました。はとむぎの効能について興味を示すお客様も多く、大好評でした。





JA根上

● 2月7日(金) ●

JA根上の丸いもを使った新商品「丸いもまるごとサブレ」・「かわいいもんフィナンシェ」の試食を行いました。サクサクで香ばしいサブレと、ごろっと丸いもが入り、しっとりしたフィナンシェは女性のお客様を中心に大好評でした。



エアーフローラバレンタイン

● 2月14日(金) ●

バレンタインデーに、花言葉が「希望」である石川県オリジナルのフリージア「エアーフローラ」のイベントを行いました。イベントでは、短冊に願いを書き、ハート型のモニュメントに飾りつけました。参加者に「エアーフローラ」を1本プレゼントし、その香りや色を楽しんでいただけました。イベント後、モニュメントは縁結びで名高い石浦神社に奉納しました。



JA松任

● 2月21日(金) ●

JA松任の「きなこぼうむ」の試食販売を行いました。白山市産の大豆を100%使用したバームクーヘンは、香ばしく、米粉入りでしっとりとしていて、好評でした。



ハントンライス人気が再燃中！ お問い合わせNo.1商品が再発売



冬の間お休みしていた

ハントンライス (税込780円) が 再発売★

インターネットや情報誌に掲載され、
休止中もたくさんお問い合わせを頂き、
その人気の高さを実感。

価格もお手頃ですのでこの機会に
ぜひハントンライスをご賞味下さい！

Beishin
おこめ
キッチン

Beishinおこめキッチン
金沢駅「あん」と店
TEL. 076-208-3119
営業時間 8:30~20:00



「つくる」と「たべる」のあいだに。——

株式会社 米心石川



大人かわいいお家

無垢の木を使ったキッチンやモザイクタイルの洗面台、アールの下がり壁など、アンティーク家具や雑貨が似合う、可愛らしくナチュラルな仕上がりのお家となりました。

大容量のパントリーや家事カウンター、家族それぞれが自分で片づけられるロッカー風の収納スペース、掲示板など子育て世代のママに嬉しい工夫がたくさん詰まっています。ご家族の想いがカタチになり「大人かわいいお家」になりました。



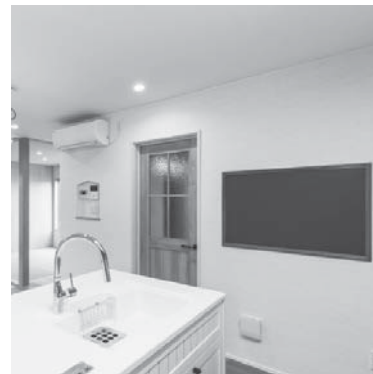
タイル貼りの造作洗面台



リビングは一段を下げて落ち着いた空間に



木製のお洒落なオープンキッチン



黒板風の掲示板

新築・リフォームのご相談はJAホームまで

(株)JA建設エナジー 住宅課 TEL 076-240-5441 HP <http://www.jahome.jp/>



令和2年産も、
丹精込めて生産し、

美味しい
「ひやくまん穀」

をみなさまに
お届けします!!



 ひやくまん穀



ひやくまん穀生産者部会のみなさま



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

発行所／全国農業協同組合連合会 石川県本部
管理部 開発広報課

〒920-0383 金沢市古府1丁目220番地
TEL (076) 240-5371 FAX (076) 240-5319
<http://www.is.zennoh.or.jp>